

生誕150年 “北欧の巨人 シベリウス” 第4回

プログラム

北欧フィンランドが生んだ大作曲家、シベリウスの生誕150年を記念して特集するシリーズも第4回、今回で最終回となります。27歳の時に完成させたクレルヴォ交響曲は、シベリウスの出世作となった作品で、フィンランドの叙事詩「カレワラ」に登場するクレルヴォを題材としています。独唱、合唱を伴った大規模な力作。“四つの伝説曲”も「カレワラ」に基づく交響詩ですが、こちらは英雄レミンカイネンの物語です。特にトゥオネラ河に浮かぶ神聖な白鳥を描いた“トゥオネラの白鳥”は単独でしばしば演奏される美しい名曲です。シベリウス最後の交響曲である第7番は古典的な4楽章交響曲の要素を凝縮して一体化、自身の交響曲の到達点を示し、単一楽章で書かれた作品ですが、それに相応しい内容を持った傑作です。北欧の王クリスティアン二世の生涯を扱った劇音楽から編集された組曲「クリスティアン二世」からはフルートの奏でる美しい夜奏曲をお聴きください。“アンダンテ・フェスティエヴォ”は自身のお気に入りの小品だったようで、シベリウスの葬儀の際にもこの曲が流されたと伝えられています。ヴァイオリン協奏曲は第1回の際にお聴きいただいておりますが、今回は名女流イダ・ヘンデルの演奏によるアンコールという形でお聴きください。シベリウスの最も知られた作品と言えば“フィンランディア”ですが、ロシア圧政への反抗心、祖国の自然への賛美を謡い上げ、後に国民賛歌にもなった愛国心溢れる名曲です。4回に渡ってお聴きいただいで来ましたシベリウスですが、同時代の大家に比べ、まだ、人気の点で劣っているように思います。これを期に多くの方々興味を持って下さる事を期待しています。（中川）

\*\*\*\*\*

**ジャン・シベリウス (1865.12.8~1957.9.20):**

**クレルヴォ交響曲 op.7 ~ 第2楽章(クレルヴォの青春) から、第5楽章(クレルヴォの死) から**

サカリ・オラモ指揮 フィンランド放送交響楽団 / PK 男声合唱団  
(1999.3.15 ヘルシンキ、フィンランディアホールでのLive)

**交響詩 “四つの伝説曲” op.22 ~ 第2曲 “トゥオネラの白鳥”**

**第4曲 “レミンカイネンの帰郷”**

エサ・ペッカ・サロネン指揮 ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団  
(2001.5.11 ベルリン・フィルハーモニーホールでのLive)

**交響曲第7番ハ長調 op.105**

サカリ・オラモ指揮 ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団  
(2012.2.25 コペンハーゲン、チボリ・コンサートホールでのLive)

\*\*\* 休憩 \*\*\*

**組曲 “クリスティアン二世” op.27 ~ 5. 夜奏曲**

ユッカ・ペッカ・サラステ指揮 フィンランド放送交響楽団  
(1989.6.8 サントリーホールでのLive)

**アンダンテ・フェスティエヴォ**

ネーメ・ヤルヴィ指揮 イエーテボリ交響楽団  
(1999.9.4 ルツェルン、コングレスザールでのLive)

**ヴァイオリン協奏曲ニ短調 op.47**

イダ・ヘンデル (ヴァイオリン)  
サイモン・ラトル指揮 ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団  
(1991.11.18. ベルリン・フィルハーモニーホールでのLive)

**交響詩 “フィンランディア” op.26**

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮 ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団  
(1976.10.16 ベルリン・フィルハーモニーホールでのLive)